

金沢市立大浦小学校	小学校教科推進校	教科(体育)
-----------	----------	--------

### 1 研究の重点と具体的な取組

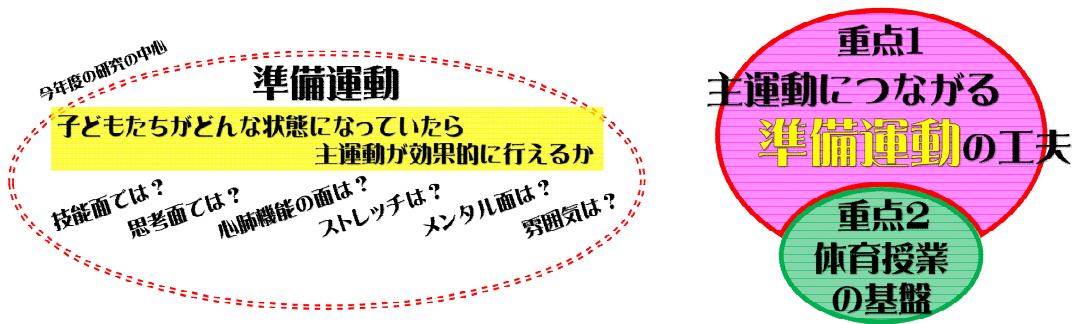
#### (1) 重点1 遊びの要素を取り入れた授業づくり

めざす子どもの姿を「前のめりになって学ぶ子」とした。2年計画の1年目は遊びの要素を取り入れながら、主運動につながる準備運動の工夫に取り組むこととした。前のめりになって体育の授業ができるように、準備運動について以下の2点を中心に研究を進めた。

- ①領域ごとにどんな準備運動が効果的なのか。
- ②準備運動を行う上で大切にすべき要素は何なのか。

#### (2) 重点2 授業を支え土台となるものの共通理解・共通実践

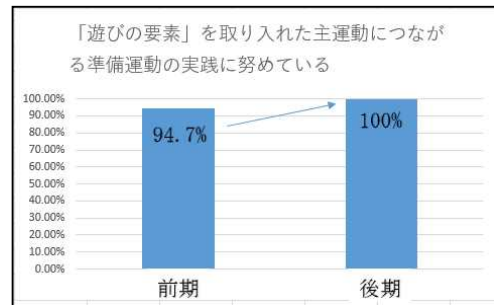
体育の授業を行う上で土台となるもの(授業づくり基礎編)と体育の授業を活性化させるためのもの(かかわり活性化編)とに分けて研究をした。



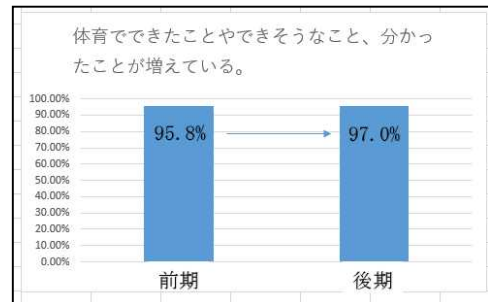
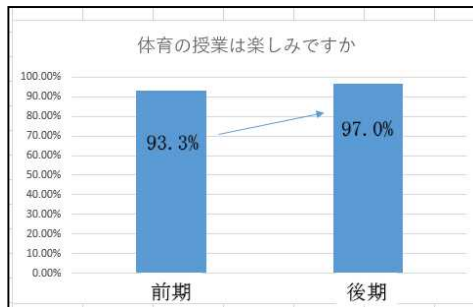
### 2 取組の検証

教員・児童アンケートによって検証を行った。「遊びの要素を取り入れた主運動につながる準備運動の工夫を行っていますか」に対して、100%の教員が肯定的に答えた。また、児童アンケートでは「体育の授業は楽しみですか」に対して97.0%が肯定的に、「体育の授業でできたことや分かったことが増えてきていますか」に対して97.0%が肯定的に答えている。

教員アンケート



児童アンケート



### 3 成果 (○) と課題 (△)

#### 研究の重点1について

- 準備運動を行う上で大切にすべき要素が「雰囲気」「技能」「思考」などさまざまなものを見つかることができた。その中で、どの領域でも共通して大切にすべき要素は「運動量」だということも再確認することができた。
- 主運動で何をするのかを考え、そのために準備運動で何を大切にしなければならないのかという逆算の考え方を共通理解し、実践につなげることができた。
- △準備運動を大切にすると、時間が延びて主運動の時間が減ってしまう場面がみられた。→準備運動で大切にすべき要素をしばり、時間配分を考える。

#### 研究の重点2について

- 校内研を通じて、「授業づくり基礎編」「かかわり活性化編」について全職員で考え、資料にまとめることができた。資料にまとめたことで共通理解・共通実践につながった。
- △研究授業では、たくさんの教員が授業を参観し、授業の作り方や児童とのかかわりなどをお互いに見合うことができた。一方で、普段から授業を見合い、意見を交流していくことが実践力向上のために必要だと感じた。



#### その他

- 本校の研究のキーワードである「遊びの要素」について継続して研究を進めてきたことで、より深まり、共通実践につながった。
- 全員が同じワークシートを使用し、事前研・事後研を行ったことで授業参観の視点がはっきりし、効率的な話し合いにつながった。
- 異学年の少人数でグループを設定したことで、6年間の指導内容を見通した話し合いをすることができた。

